

# コメント

# 1ヘビーユーザーの 立場から

2012.3.29 伊藤 智章  
静岡県立吉原高等学校

公開シンポジウム  
「ICTを活用した  
地理学の情報発信・  
社会普及と連携」

①問題認識

②最近の実践例から

③まとめ

# 1. 問題認識

$$Y = aX + b$$

$$Y = aX + b$$

地理学の社会的認知  
と貢献の度合い

→客観視・最大化

$$Y = a x + b$$

伝達のための手段と  
技術

・・・有力な手段としての  
(ICT)

$$Y = aX + b$$



地理学の新たな知見  
研究成果



# 本シンポジウム

$$Y = aX + b$$



効果的な伝達

普及手段としてのICT

$$Y = aX + b$$

学術的成果に添える  
付加価値・解説・教育

# +b

平易な言葉で解説を加えて興味を引き立たせる。表現手段

「・・・で、何がすごいのか？」

# +bの担い手

①研究者自身

②マスメディア

③教育者

など

日々の授業は常に

$$aX+b$$

生徒にとっては

$$X < 1 \quad (X \doteq 0)$$

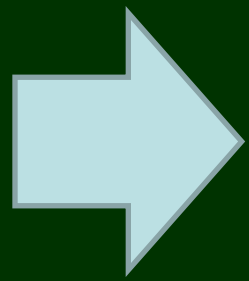
最もラクなのが、淡々と  
**X**を与えて**b**を足すこと。

# 教科書

チヨーク

トーク

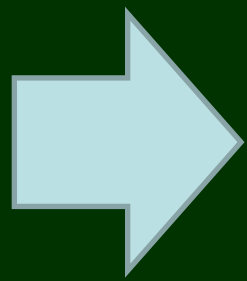
**b**を足すだけでなく  
**a**をかける発想と実践



地理教育の現場でも  
意識的に行うべき

常にYを意識した

X, a, b のデザイン



他の学会の動向  
先駆的な取り組み  
に学ぶ



# 「まずは検索」

地理プロパーであるなしに限らず、使う教師は多い……点検必要。

⇒「Wikipedia」山田報告

「プログラムは  
論文になりにくい  
が  
ネット上で拡散」

(谷報告)

“教育実践”報告に共通  
⇒実践者のモチベーション

# 「2次利用・複製可能な 自由な地図」

（古橋報告）

広い意味での“教材化”

2次利用許諾の手続き

「プチ伊能」をどう育てる？

# 「リアルタイム モニタリング」

(斎藤ら報告)

「Webにあるよ」+b

⇒現場でどう役立てるか？

(行政担当者向け講習など)

「営業担当のいない工場」

「営業戦略なき個人商店」

（目代報告）

⇒「ブランド戦略」との  
兼ね合い

⇒「変わるに変われない  
老舗」

# 「若手どんどん投稿を」

(苅谷報告)

2010. 春のシンポ記事  
⇒掲載は2011. 12月

紙より遅いEG(院生は出てしまう)  
⇒「電子」=コスト安でよいか?  
(「プロ」は2か月後)

# 2. 事例紹介

(私の  $aX+b$ )

事例①

毎日使うGIS



学校現場において  
**a**を掛ける機会は  
まれである。

それ自体が  
イベント

ならばあえて

ICTが  
必ず教室にある  
を丸1年やってみた。

# 授業方法の全面的な転換

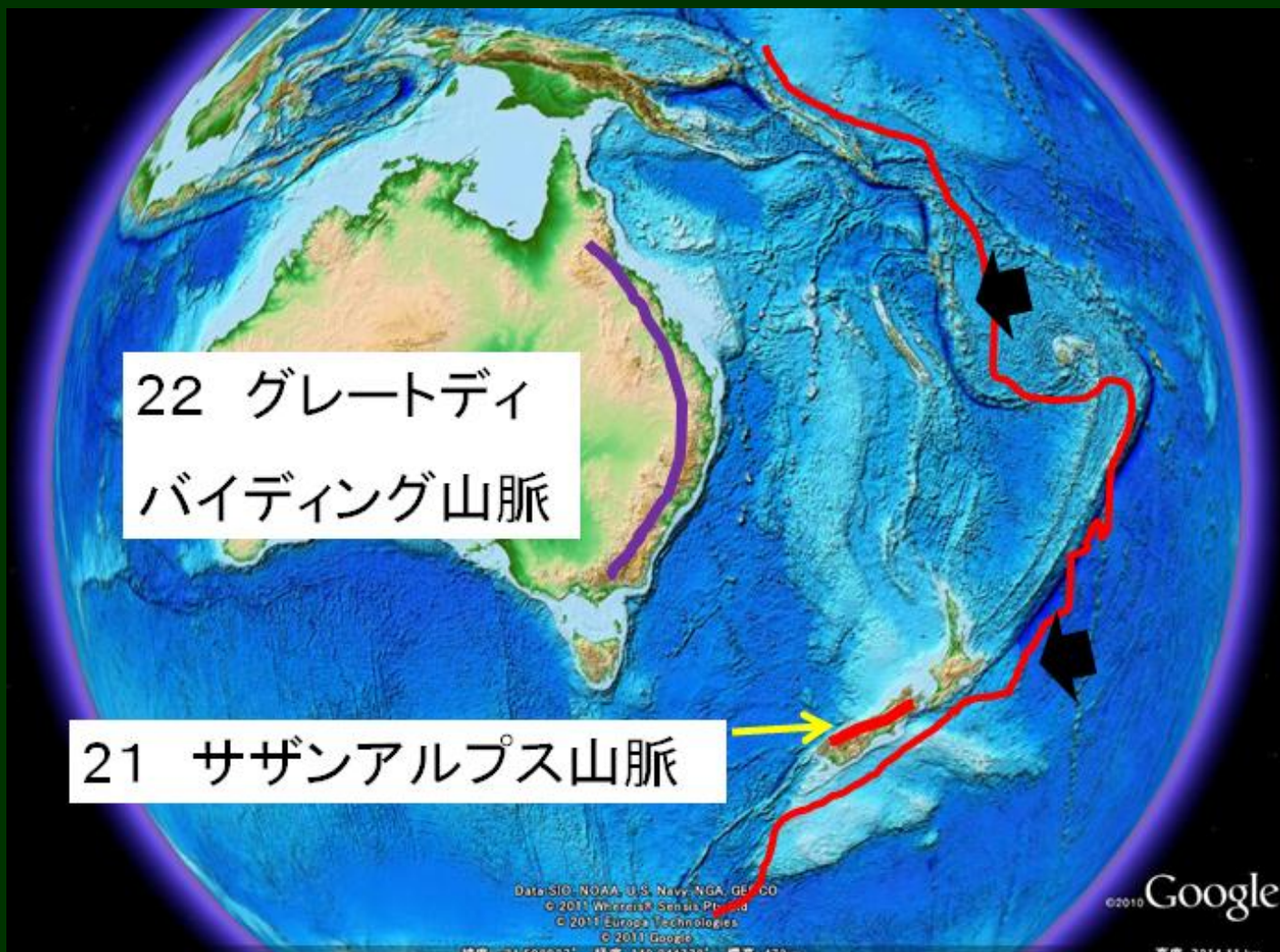
- ・板書→スライド投影
- ・ノート→プリント  
(半分を穴埋め、半分を  
「作業の時間」に)
- ・2～3分の動画等を随所  
に入れる

イベント的に行う  
「体験型教育GIS」から

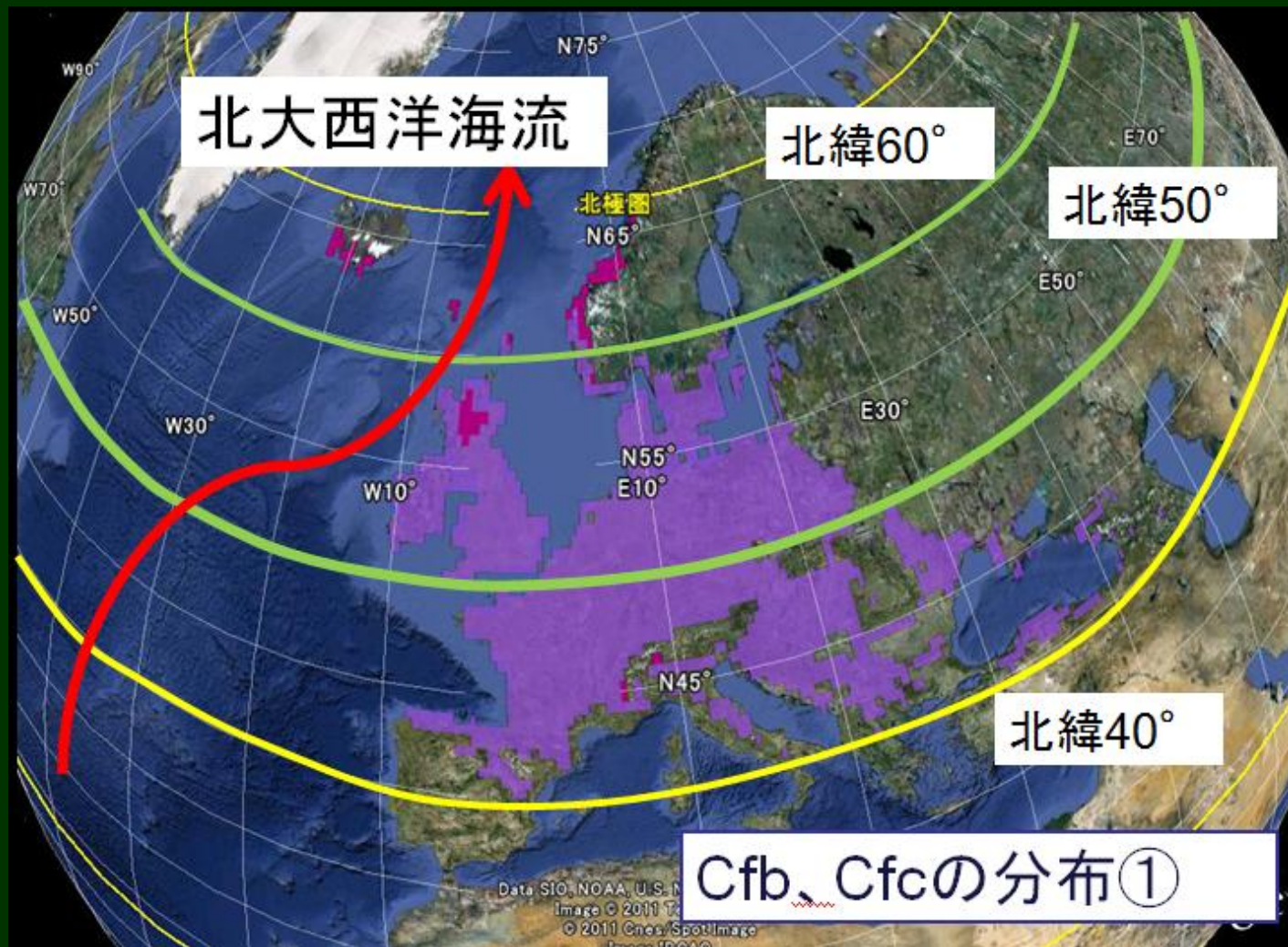
いつでもある

「提示・観察型GIS」へ  
→「電子掛け地図」

# 造山帯と大山脈を覚える (地理B: 高校2年)



# 気候帯の分布を知る (地理B: 高校2年)



# 神戸市の鳥瞰図で扇状地を俯瞰する



伊藤:2011a

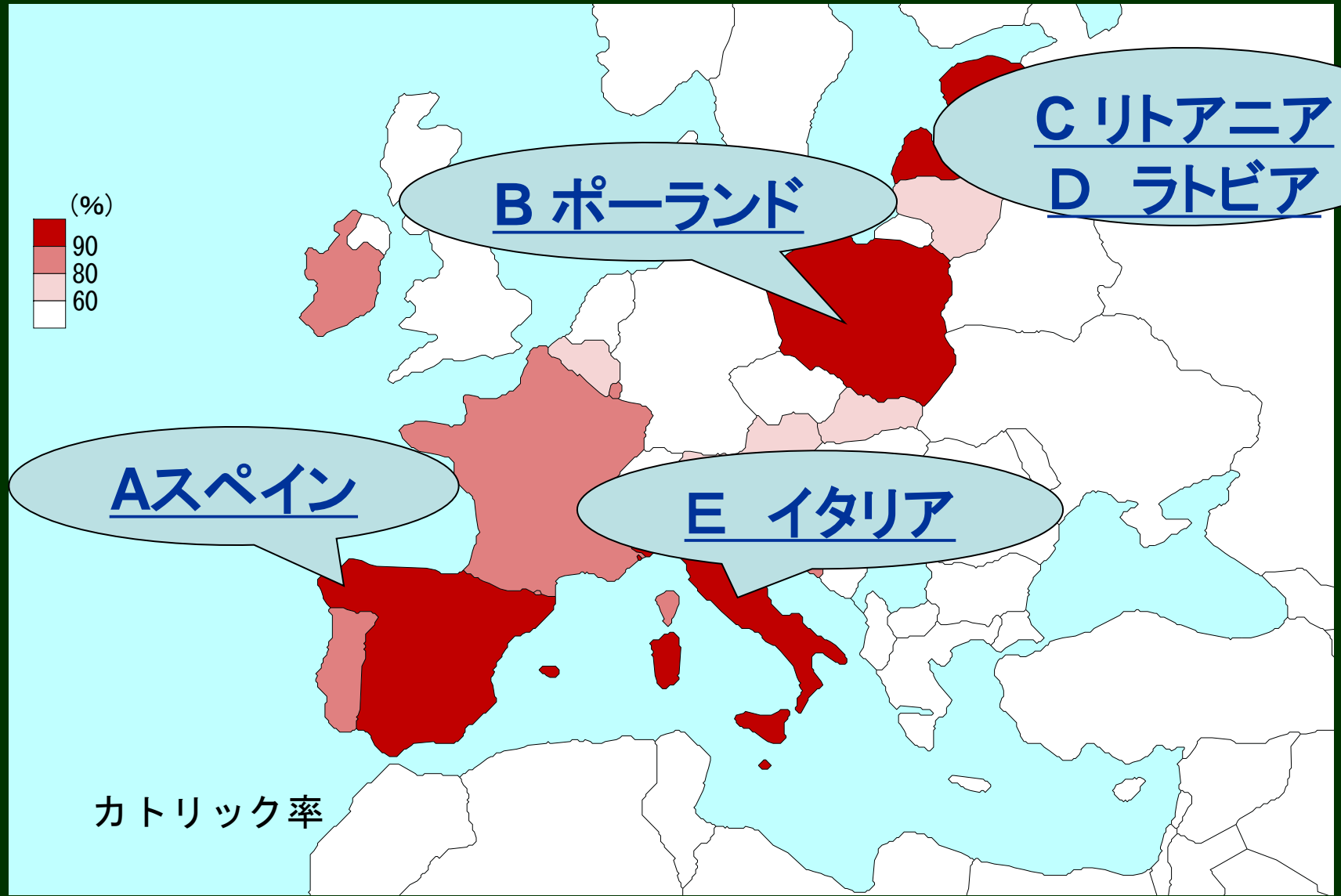




流れる方向

# 天井川の説明

# ヨーロッパのカトリック信者の割合と、比率が高い国の把握



自然堤防上の集落

集落

自然堤防上の集落

自然堤防

洪水時の水

岩木川



# 成果と反省点

定期テストの平均点は  
若干上がった。

→ICTの成果なのか、  
「プリント学習」の成果な  
のかは、はっきりせず。

プロジェクタを置くには  
普通教室40人は  
あまりにも狭く、明るい。

→机の配置等に工夫  
が必要。

せっかくICTで

“a”をかけているのに

“X”の精選が不十分

“b”を減らせていない

→教科書の内容を追うだけの  
膨大なスライド

せっかくICTで

“a”をかけているのに

不必要な“+b”が

多かった

→減らせなかった

提示された文字を  
書き写す「講義」

→ 図や写真、動画をじっくり  
観察して考え、表現し、  
意見交換する授業と評価  
(なかなか難しい)



事例②

iPad地図帳

近未来の教室では、  
電子黒板、電子教科書  
電子地図帳が当たり前？



# 「電子辞書」の次は 地図帳だ！

- ①ありとあらゆる地図が  
一つの端末に納まる
- ②地図を自在に拡大し、  
透かすことができる。
- ③GPSで現在地が分かり、解説を  
加えられる。



# 基盤地図情報 × 標高メッシュ



# 小縮尺電子国土



# 富士山火山ハザードマップ



# 「震災記憶地図」プロジェクト



# 市民参加型の「地図アプリ」 製作プロジェクト (静岡県富士市)





「ほとけ」は作りました。

さて、どうやって

「魂」をいれましょう？

という段階

+ b ?

# 3. まとめ

# 本日の発表

$$Y = aX + b$$

著しい進化と  
可能性を確認。

ただ、素晴らしい  $x$ ,  $a$  があるにも関わらず

$$Y = aX + b$$

地理学の  $Y$  値は、他の  
学問分野に比べると、  
決して大きくはない

$$Y = ax + b$$

bの多様化とメリハリ、  
戦略的、組織的な  
フォローが必要では？

パネリストの皆さんへ

①ご自身の担われている

“**a**” をどう大きくするか？

②“**+b**”の充実と人材育成  
にむけたビジョン

を聞かせていただければ  
と思います。

おわり